

入域観光客統計概況

- 平成 17 年 4 月分 -

平成 17 年 5 月 23 日
沖縄県観光商工部

4 月の入域観光客数は、446,600 人。前年同月比は、+6.7% (+28,100 人) で、同月の過去最高を記録した。

1 月～4 月までの入域観光客数は、1,767,000 人。前年同期比は +2.7% (+46,500 人) となった。

1. 国内外別入域状況

国内：434,200 人 前年同月比 +7.3% (+29,700 人)
海外：12,400 人 前年同月比 11.4% (+1,600 人)

2. 主要航路別入域状況

東京：194,500 人 前年同月比 +9.4% (+16,700 人) 構成比 43.6%
阪神：88,200 人 前年同月比 +9.8% (+7,900 人) 構成比 19.7%
福岡：52,100 人 前年同月比 4.6% (+2,500 人) 構成比 11.7%
名古屋：38,700 人 前年同月比 +16.6% (+5,500 人) 構成比 8.7%
札幌：6,300 人 前年同月比 +5.0% (+300 人) 構成比 1.4%

3. 概況と見通し

4 月の入域観光客数の概況としては、国内客については、米州開発銀行 (IDB) 年次総会の沖縄開催や修学旅行生の増加、ゴールデンウィークの日並みの良さなどの要因により前年実績を上回った。

外国客については、定期クルーズ船の寄港回数が前年より少ないことなどから前年実績を下回った。

しかし、外国客の落ち込みを国内客がカバーし、入域観光客全体としては同月の過去最高を記録した。

今後の見通しとしては、国内客については、5 月上旬の航空旅客輸送実績が好調に推移していることや、修学旅行生の増加により、好調に推移すると予想される。

外国客については、クルーズ船の運行が昨年と同様のスケジュールで運行されることから、前年並みの実績を維持すると予想される。

以上のことから、入域観光客全体としては、当面は好調に推移すると予想される。

担当：観光企画課 上原
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

大型コンベンション(I D B 年次総会)の沖縄開催や、大型団体旅行が伸びたことや、個人型商品が好調に推移したため入域観光客増につながった。

5 月前半は好調に推移しており、沖縄人気が続いていることから昨年実績を上回る見込みである。

大阪事務所(阪神地区)

メディアによる沖縄情報の発信の頻度が高く、沖縄人気の継続につながったことや、連休の日並びの良さが入域観光客の増加につながった。

今後は、トップシーズンに向け旅行需要が増すことが予想されることや、中学校の修学旅行シーズンに入ることから、順調に増加傾向で推移していくと思われる。

福岡事務所(九州・山口地区)

昨年は、国体九州ブロック大会など大型スポーツコンベンションの開催が沖縄への入域観光客増につながったが、今年は沖縄での開催がなかったことから前年実績を下回った。

各旅行代理店によると、夏休み期間は愛知万博への送客が本格化し、家族旅行層が一時的に名古屋へシフトする可能性があるとのことである。

名古屋事務所(名古屋地区)

春休み期間中の 4 月初旬、ゴールデンウィーク期間中の 4 月後半が特に順調だった。

5 月以降についても順調に推移すると予想される。

北海道観光・物産情報センター(北海道地区)

消費者の旅行需要が全体的に活発化していることが、沖縄への入域客増加につながった。

2. 海外

台北事務所(台湾地区)

旅客は、話題性の高い愛知万博に集中しているため、本県を含む日本の他地域への送客は全体的に伸び悩む結果となっている。この傾向はしばらく続くものと思われる。

定期クルーズ船については、4 月は石垣港に 4 回、平良港に 3 回、計 7 回の寄港があった。今年は気温の上昇が遅かったことが販売に若干影響している。

韓国事務所(韓国地区)

5 月中旬から実施されている韓国、台湾共同のチャーター便では、韓国から約 170 名の送客を予定しているため、前年同期並みの実績を達成する見込みである。